

平成22年度 第三回 国語 問題解説

1 説明文

問一 空欄補充。指定字数があることに注意してください。この部分では民主主義がどのような「しくみ」でできているのかを述べている部分です。このことについては7行目以降の部分で述べられています。

問二 傍線部の理由を答える記述問題です。傍線(1)は民主主義を支える市民の能力が低いのではないかという批判です。これについて筆者の意見がある42行目から始まる段落をまとめることとなります。

問三 空欄を含む文の始めに、「実際、民主主義を」とあるのがヒントになります。何に対する「実際」なのかを考えます。この段落の始めに、「子どもには…判断する力がないから、大人が決めてあげる」とあり、親子関係が述べられています。

問四 「与えられた前提」とは「どのような国のどのような家庭に生まれるか」(62行目)といったことであり、これを自分の意志で選択できないということです。民主主義の理念とは問一で考えたように、「その社会に生きる人々が、自分たちにとってどのようなルールが必要かを考え、決めるしくみ」ですが、それにもかかわらず「自分たちよりも上の世代が決めたルールの中で生きてい」(65行目)かなければならないという現実がある訳です

問五 『与えられた前提』の奴隷にならないために必要なこととは何かが問われています。「与えられた前提」については問四で考えました。その奴隷にならないとは「理不尽な秩序をおかしいと思う人が多数になれば、民主主義というしくみを使ってそれを作りかえる」(71行目)ことといえます。

問六 設問では、代表民主主義が機能しない場合の状態についてたずねています。国民の代表者である政治家が、国民のことを考えなくなったらどうなるかということです。このことについては81行目に、「代表者が国民の意思とは無関係に、勝手に物事を決めること」とあるのをういてまとめることができます。

問七 漢字の書き取り。楷書でていねいに書きましょう。

問八 本文の内容に合うものを選ぶ問題です。

アは、「世界から理不尽なルールがすべて撤廃された」が誤りです。理不尽なルールは民主主義のしくみによってつくり変えられるべきだとは述べられていますが、撤廃されたとは書かれていません。

ウは、「市民には正しい判断をする能力がない」とは述べられていないし、代表民主主義は人口が多い場合、市民の代表が選ばれるものとして生まれたものだとして述べられています。

エは「国民が政治家へ具体的な指示をすること」が間違い。90行目に「国民が政治家に対して何々をせよと具体的に指示するのは不可能です」とあります。

2 物語文

問一 傍線部の中に表現された主人公の心情を考え、その理由を考える問題です。

アは、椎野先生や押野が飼育委員を選んだのではないし、動物の飼育に対する関心がまったくなかったわけでもありません。亀山さんは亀を飼うことに関心をもっているし、二人の男の子は家で熱帯魚を飼っています。

イは、「自分に意見にこだわり、人の意見を聞こうとしない人ばかり」が誤り。二人の男子は「べつになんでもいい」（46行目）と答えています。

エは、「自分の意見をはっきりと口に出して言う人が一人もいない」が間違い。亀山さんは亀を飼いたいと主張しました。

問二 亀山さんのほうがましと考えたのは、亀山さんの方が自分の意見をもっていることや、二人の男子が見せたような「いやな感じで笑った」（45行目）といった不快な態度をとらないことです。この二点をまとめます。

問三 耳を使った慣用句の問題。

問四 「これが怒るってことだ。」というのは主人公がこれまで怒ったことがないということを意味します。3行目にあるように主人公は「去年までは一日の間にクラスメイトのだれとも一度も話さなかったときだって少なからずあった」のです。

アは「気持ちを無理に押し殺してきた」とは述べられていないし、「あまりにひどいうち」にあたるものも文中にはありません。

イは、「自主性のない人だけは我慢できない」と枝田が思っているとは述べられていないので間違い。

エは「まわりの友人がとても冷たく接するので」も「いつのまにか性格が変わり」も文中にはありません。

問五 押野が驚いたのは枝田が64行目にあるように「ふだんのぼくは、相変わらずのさえない男の子」であったのにもかかわらず、4人の飼育委員の中で唯一堂々と発言したからです。

問六 はずかしくなったのは、枝田が、二人の男子を非協力的ないやな人だと決めつけていたからです。「手際よく準備してくれ」る姿をみて反省をしたのです。

問七 「景色が広がる」という比喩的な表現を考える問題です。

アは「転校した」とあるのがまちがい。本文にはありません。

ウは「景色」を実景の意味としてしか捉えていないのがまちがい。

エは「お母さんの愛情に守られて限られた世界で」とあるのが不適切。母の愛情のせいではありません。

問八 本文に合うものを選ぶ問題です。

アは「教室で飼う生き物を何にするのかを決めることに興味をもっていた」が間違い。5行目によると飼育係の仕事を枝田はよく分かっていなかったことになります。

イは枝田の押野に対する気持ちです。しかし、このように考えていたのかどうかは問題文中からは判断できません。

ウは「一生懸命に説明することによって」がまちがい。そのような記述はありません。

エは椎野先生が67行目にあるように「やさしい親戚の叔母さんみたい」な笑顔を浮かべたとあるのに相当します。よってこれが正解です。